

第17回月例社会保障研究会

「本人主体、市民参加の社会保障へ」

2014. 1. 16

さわやか福祉財団理事長 堀田 力

1. 社会保障の新しい展開

すべての人を生かし、すべての人を肯定する社会の創造

資本主義体制と社会保障

一定水準以下の人を経済的に切り捨て、切り捨てた人の生活を
経済的に（現物給付を含めて）保障するシステム

資本主義体制の進展（グローバル化）

- ・企業の効率絶対視の進行
→ ・企業福祉の衰退
 - ・企業の人的交流機能（ふれあい）の衰退
- ・家庭の企業戦士養成・維持機能の強化
 - ・家庭の福祉機能の衰退
 - ・家庭の全人格承認機能（ふれあい・いきがい）の弱体化
 - ・高齢家庭のいきがいからの隔離

→ すべての人を生かし、すべての人を肯定する社会が必要

それが可能なのは、

- ① 全人格回復の場としての地域社会
- ② 特定の能力を生かし、ふれあい、承認を得る場としての非営利活動

2. 子ども・子育て支援

親の力だけではやれないことは何か

地域の力が必要なことは何か

3. 生活困窮者自立支援

アウトリーチ・伴走をするのは誰か

4. 新地域支援事業

生活支援を要する高齢者のやる気を引き出すのは誰か

5. やる気はどこから生まれるか

(1) 「尊厳」と「自立」

(2) 「本人主体」＝いきがいを生み出す支援

(3) いきがいを生み出すには、市民参加が不可欠

6. 専門的・身体的ケアは、地域社会と連携して提供すること

尊厳保持とその支援

